

新興国レポート

インド準備銀行2会合連続で政策金利引き上げ

CPIは前月を下回ったものの、当面高止まりか

- ▶ インド準備銀行(RBI) は8日定例会合を開き、2会合連続で政策金利引き上げを決定。
- ▶ インドの5月CPI(消費者物価指数)上昇率は前月より低下したものの、前年同月比+7.0%となっており、RBIの政策目標(2~6%)を上回る。
- ▶ RBIの利上げを受けてインドルピーは対円で約4年ぶりの高値に上昇。

(1) 2会合連続で利上げを決定

・RBIは8日、金融政策決定会合を開き政策金利を0.5%引き上げ、4.9%とすることを決定しました。利上げは2会合連続となります(図表1)。ダス総裁はウクライナ危機が続くなか「過去の会合で懸念されたインフレの上振れリスクは想定よりも早く現実のものになった」と発言しました。金融政策については「緩和的」な姿勢を維持するとの文言が削除され、今後の追加利上げの可能性を示唆する内容となりました。

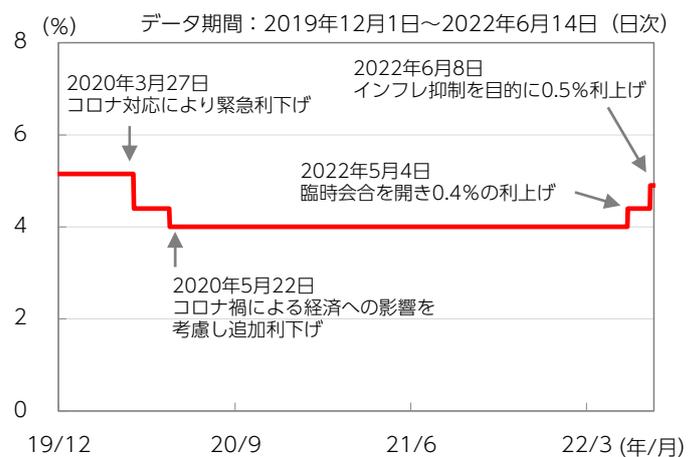
(2) インドCPIの動向

- ・インド統計・計画実施省中央統計局が13日に発表した5月CPIは前年同月比+7.0%と、前月の同+7.8%から低下したものの、RBIの政策目標(2~6%)を上回りました(図表1)。項目別では、飲食費が、前年同月比+7.8%と前月(同+8.1%)から低下したものの、3月の同+7.5%から上昇、光熱費も同様の傾向をみせており、インフレはピークを付けたと考えるのは、時期尚早との見方が大勢を占めています。一部機関投資家からは、CPIは9月頃まで7%近辺に止まるとの見通しが示されています。
- ・尚、今後のCPIに関してRBIは、上記会合で2022年度(22年4月~23年3月)は前年度比6.7%の上昇を見込んでおり、政策目標の上限である6%を上回るとの見方を示しました。

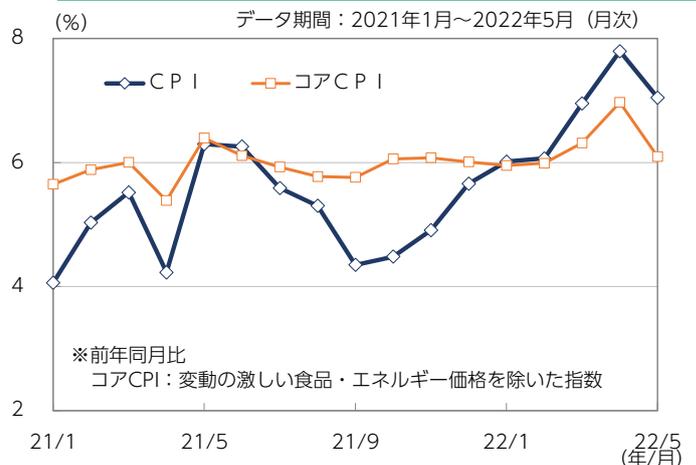
(3) インド株式や通貨の動向

- ・利上げなどをうけてSENSEX指数は、下落基調となっています。インフレ率の高止まりが景気減速を招くとの懸念が重荷となっているとみられます。インフレ鎮静化の兆しがみえるまで上値の重い展開が想定されます。利上げによるインド長期金利上昇を受けてインドルピーは対円で約4年ぶりの高値を付けるなど上昇基調となっています(図表3)。RBIが更に利上げに動くとの観測もあり、緩和政策を維持する日銀とのスタンスの相違や金利差の拡大(インドー日本)観測から、当面インドルピーは対円で堅調に推移することが想定されます。

図表1：インドの政策金利



図表2：インドのCPI上昇率



図表3：インド株(SENSEX指数)と為替の推移



【当資料に関する留意点】

- 当資料は、市場環境に関する情報の提供を目的として、ニッセイアセットマネジメントが作成したものであり、特定の有価証券等の勧誘を目的とするものではありません。また、金融商品取引法に基づく開示資料ではありません。実際の投資等に係る最終的な決定はご自身で判断してください。
- 当資料は、信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。
- 当資料の内容は作成時点のものであり、将来予告なく変更されることがあります。
- 当資料のいかなる内容も将来の市場環境等を保証するものではありません。
- 当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。
- 当資料に投資信託のグラフ・数値等が記載される場合、それらはあくまでも過去の実績またはシミュレーションであり、将来の投資収益を示唆あるいは保証するものではありません。また税金・手数料等を考慮しておりませんので、実質的な投資成果を示すものではありません。
- 投資信託は投資する有価証券の価格の変動等により損失を生じるおそれがあります。
- 投資信託の手数料や報酬等の種類ごとの金額及びその合計額については、具体的な商品を勧誘するものではないので、表示することができません。

<設定・運用>



ニッセイアセットマネジメント株式会社

商号等：ニッセイアセットマネジメント株式会社

金融商品取引業者

関東財務局長（金商）第369号

加入協会：一般社団法人投資信託協会

一般社団法人日本投資顧問業協会

ニッセイアセットマネジメント株式会社

コールセンター 0120-762-506（受付時間：営業日の午前9時～午後5時）

ホームページ <https://www.nam.co.jp/>